

Field, George

Chromatics ; or, the analogy, harmony, and philosophy of colours.

London, David Bouge, 1845. xvii, 263p. 11 plates (copper hand-col., mono).
23×15cm. <K425. 7-F> 文献番号 9-10-②

フィールド, ジョージ『色彩論：クロマチックス』

フィールドには本書に先行する色彩関係の著書が2冊ある。『色彩学』(文献番号 9-10) *Chromatography ; or, a treatise on colours and pigments*. およびその解題の中で紹介した『色彩論, あるいは色彩の類比と調和に関する試論』*Cromatics ; or, an essay on the analogy and harmony of colours* である。この2冊の欧文タイトル, *Chromatography* と *Chromatics* は, いずれも“色彩学”を意味するが, 邦訳タイトルの混同を避けるため, 解題では前者を『色彩学：クロマトグラフィー』, 後者を『色彩論：クロマチックス』(解題の本文ではそれぞれ『色彩学』, 『色彩論』としてある)として区別した。

さて欧文タイトル *Chromatics* との共通性からうかがえるように, 本書は1817年の“試論” essay としての『色彩論』にその後の新たな考察を加え, 『色彩論』を“哲学” philosophy に発展させた, いわばフィールド色彩学の集大成ともいえるべき著書である。本書と1817年版『色彩論』との継続性は, 本書の冒頭に1817年版『色彩論』の序文が, 初版のための序文としてそのまま転載されていることでも明らかであろう。1835年の『色彩学』を経て, 本書にはフィールド色彩学のエッセンスの全てが注ぎ込まれている。

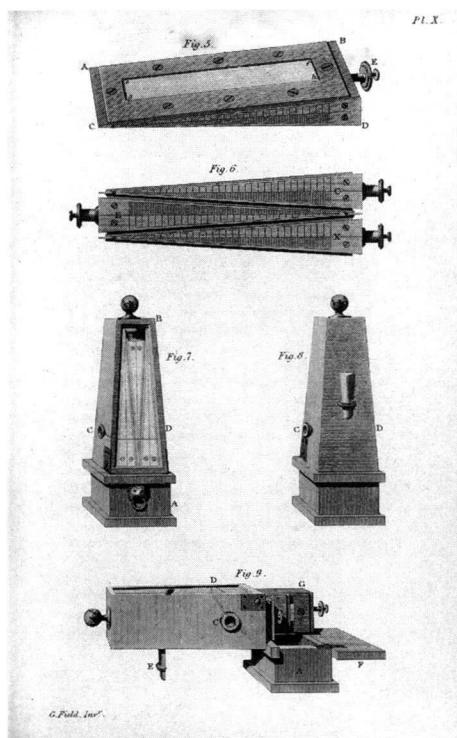
内容は大きく三部に分かれている。第1部は「色彩論」として, 色の類比と調和の関係を説く。第2部は「美学的色彩論」が主題で, 音楽・絵画・詩との類比にもとづく色彩の調和関係が扱われる。第3部は「物理的色彩論」である。ここではフィールドの有名な“メトロクローム”や, 円形のスペクトルを観察するための“クロマスコープ”などについて解説される。

改訂版『色彩論』の構成は, 色彩の科学は音楽との類比により普遍的な科学へと発展するとする初版の基本理念を踏襲する章立てとなっている。ただ『色彩学』で図示されていたカラーサークルには, オレンジ・青軸に暖／寒, 黄・紫軸に前進／後退の2種の心理効果が付与されていたが, 『色彩論』では新たに赤・緑軸にも高中音部／低中音部という意味が与えられた(第1部)。また造形の構成要素である形についても, 色彩理論における赤・黄・青の三原色に対応した“三原形” three primary figures という概念が新たに付け加えられ, 形態の構成においても, この三要素の類比関係にもとづく調和理論が展開される。“三原形”とは直線 right line, 折れ線 angle, 曲線 curve を指し, 直線は平面の矩形をへて立体の直方体へ, 折れ線は正三角形をへて正三角錐(正四面体)へ, 曲線は円をへて球へと発展する。一次の三原形は二つずつ組み合わせられると, 色彩における二次色に対応した二次形態, 例えば直線と折れ線では三角錐 prism が, 直線と曲線からは円筒形 cylinder が,

折れ線と曲線では円錐 cone が生まれる。そしてこれら三つの立体が球を中心として内接した場合のそれぞれの底面積比は、三原色の調和関係である 5:3:8 に近く (実際は 5:3:12 になる), ここに色と形の類比関係があるという。このようにフィールドは, 形態においても三要素への還元とその発展が宇宙的調和を生むという哲学を展開する (第2部)。

フィールドの改訂版『色彩論』発刊の6年前, フランスの化学者シュヴルール (M. E. Chevreul) の名著, 『色彩の同時対比の法則』 *De la loi du contraste simultané des couleurs* (文献番号 9-12) が出版されている。当時のヨーロッパでは, フィールドとシュヴルールが色彩に関する実務的研究者の双壁であり, 二人の著書は画家やデザイナーの多くに色彩表現についての具体的指針を与えていた。このようなフィールドの色彩理論は, ロンドンで 1851 年, 世界ではじめての万国博覧会が開催されたとき, 造園家パクストン (J. Paxton) による有名な万博パビリオン, クリスタルパレスの内装を手がけた建築家オーウェン・ジョーンズ (O. Jones) により, その配色の指針として適用された。さらに赤 5, 黄 3, 青 8 の配色は, ジョーンズの『装飾の文法』 *The Grammar of ornament*, 1856. (文献番号 8-47) の冒頭に掲げられた形と色の配列に関する諸原則にも取り入れられている。またフィールドのカラーサークルと独特の色彩調和理論はアメリカに渡って 1860-80 年代の小学校教育の一部に組み込まれ, さらにアメリカのシステムをモデルとした明治初期の日本の小学校教育にも『色図』として導入されていた。

フィールドの色彩関係著作には文献番号 9-10 に紹介したもののほか, 1850 年に出版さ



メトロクローム

れた『画技法入門—彩色の文法』 *Rudiments of the painters art ; or, a Grammar of colouring* があり, フィールドの没後, その改訂版を 1870 年マレ (Robert Mallet) が, また 1875 年ダヴィッドソン (Ellis A. Davidson) が出版した。

ダヴィッドソン版は 1916 年に至っても第 7 版が出版されており, フィールド色彩論が, 今世紀に至ってもなお長く支持されつづけたことをうかがわせる。(緒方)